



# 子宮頸がん予防ワクチンがスタート

あなたの夢はなんですか？ 将来どんな仕事をしたいですか？ どんな家庭を築きたいですか？  
こんな質問を毎年、東川高校の性の授業で高校生のみなさんにしていきます。今回は2月1日から町の助成が始まった子宮頸（けい）がん予防ワクチンのお話。がんという大きなリスクを抱えてしまつては将来に向かつて皆さんの大きな夢を実現できなくなつてしまいかねません。でもそんなリスクに朗報！ 皆さんの将来のために考えてみましょう。

## ●子宮頸がんって？

子宮頸がんは女性特有のがんで、子宮の入り口にできるがんのことです。子宮は女性だけにある特別な臓器で、赤ちゃんを育てるお部屋の役割をします。子宮頸がんは検診での早期発見が可能ですが、発見が遅れると子宮を失うだけでなく命を失うこともある恐ろしい病気です。近年、日本で子宮頸がんと診断される人は年間約1万5千人。約3千5百人は子宮頸がんがんで亡くなっており、日本では1日あたり約10人がこの病気で亡くなつていくことになります。また、子宮頸がんは20〜30歳の若い女性で急増しています。この年代は多くの女性が結婚や出産を経験する時期でもあります。この時期に妊娠・出産の可能性を奪われてしまうことは非常に悲しいことです。

## ●原因はウイルス、感染経路は性交渉

子宮頸がんは「ヒトパピローマウイルス（以下、HPV）」というウイルスの感染が原因です。HPVは皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスで、100種類以上あります。このうち、子宮頸がんの原因となるのは15種類ほどです。感染経路は主に性交渉。性交体験のある女性の約8割は一生に一度はこのウイルスに感染するといわれています。しかし、感染した人全員が子宮頸がんになるわけではありません。HPVに感染しても9割以上は体内から自然に排除され、感染は一過性に終わります。排除されなかった一部のウイルスの感染が長期間続くと細胞が異常な形態を示すようになり、数年から十数年かけてがん化します。

## ●予防はワクチン接種と検診

HPVは一度排除されても、感染の機会があれば何度でも感染します。  
2月1日から、中学1年〜高校3年生相当の女子を対象に子宮頸がん予防ワクチンの接種が始まります（接種費用は無料、指定の医療機関のみ）。腕の筋肉に3回注射をします。子宮頸がん予防ワクチンはHPVの中でも「16型」と「18型」の2つのタイプの感染を防ぐことができます。この2つのタイプは子宮頸がん患者の約6割に見つかつています。ただし、すべてのタイプの感染を予防できるわけではなく、また接種前に感染したHPVを排除したり、発症しているがんの進行を遅らせたり、治療することはできません。

## ●あなたの未来のために

若い世代で急増している子宮頸がんですが、15〜19歳の女子の約3割がHPVに感染しているという報告もあります。子宮頸がんの予防には、ワクチン接種と検診は有効ですが、感染経路である性交渉を早期から経験しないことが最も重要なのではないのでしょうか？ 残念ながら、コンドームを使用してもHPVの感染は防げません。望まない妊娠・出産を避けること、性感染症を予防するためにも自分の体と向き合い、よく考えて行動しましょう。